

1 郷土の沿革

高槻（地名のおこりは「高月」）の名が史上に現れるのは鎌倉時代から南北朝時代であるが、いわゆる新石器時代から人類の住みついた跡があり、紀元前3世紀頃には稲作も伝わっていた。南北朝時代から戦国時代にかけては、細川晴元、三好長慶らが芥川城を拠点として活躍し、高槻城の祖、入江左近将監春継が城館を設け、やがてキリシタン大名の高山右近が高槻城主となって日本のキリシタン史上に足跡を残すこととなった。

江戸時代に入り、慶安年間高槻城に永井直清が封入して以来、領内の治山・治水に意を注ぎ、永井家の封地として発展したが、明治2年6月の版籍奉還で永井直諒を最後に高槻城は廃城となり、明治7年城郭は破却された。その間、明治4年7月の廃藩置県により高槻藩は高槻県に改められ、さらに同年11月の地方府県の改革統合によって大阪府に編入された。

明治22年4月1日に発足した町村制により高槻村は上田辺村を合併して島上郡高槻村となり、明治31年10月14日には近隣諸村に先駆けて町制を施行、その後大正14年11月には富田村が、昭和4年1月には芥川村が相次いで町制を施行した。

昭和6年1月1日、三島郡高槻町、芥川町、清水村、磐手村及び大冠村の5町村が合併して新しい高槻町が成立し、さらに昭和9年9月1日には如是村を合併して田園都市の礎を築くとともに、太平洋戦争さなかの昭和18年1月1日、大阪府下9番目の衛星都市として市制を施行し、ここに高槻市が誕生した。

終戦後、昭和23年1月1日には阿武野村を、昭和25年11月1日には五領村を合併、その後の工場誘致、住宅建設などにより、ようやく田園都市から産業都市への発展のきざしが見えはじめた。こうした現状を基盤として、町村合併促進法に基づき昭和30年4月3日に三箇牧村を、昭和31年9月30日には富田町を合併、ついで昭和33年4月1日、京都府南桑田郡檜田村を合併編入し、ほぼ現在の市域を整えるに至った。

そして、昭和35年頃からの高度経済成長と歩調を合わせて、本市は大阪市のベッドタウンとしての色彩を強め、市内各地で宅地開発が進んで田園都市としての姿は一変した。とりわけ昭和40年代には人口が急増し、昭和44年には20万人を、昭和48年には30万人を突破した。こうした急激な人口増加は昭和50年代に入るとようやく鎮静化したものの、人口急増による学校建設などの行政需要が増大し、本市の財政は未曾有の危機に陥った。

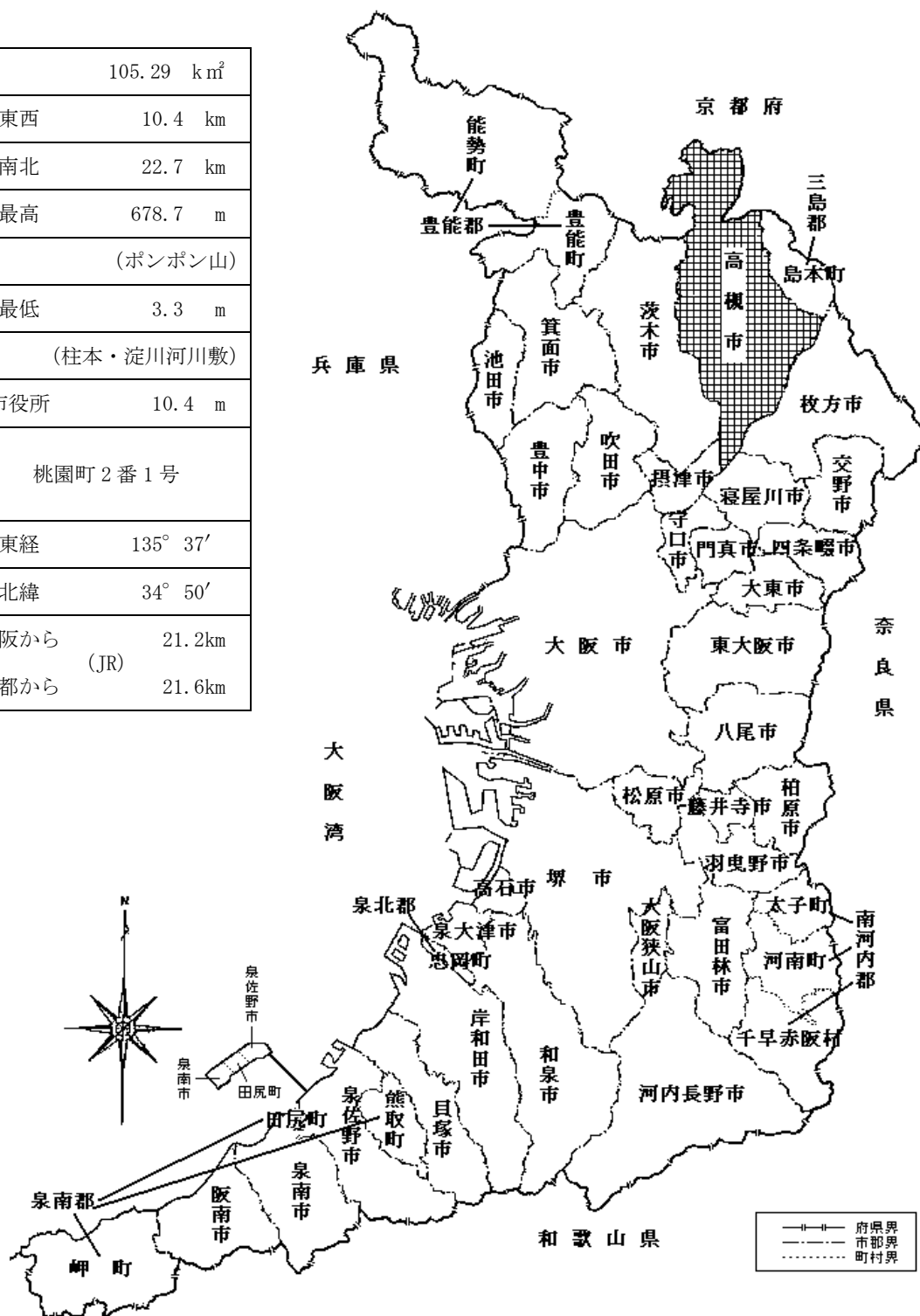
その後、自主再建により財政赤字を解消しつつ、JR高槻南駅前市街地再開発や阪急高架事業をはじめとする都市の骨組みづくりに取り組み、40万人規模の「文教・福祉都市」建設を目指した。

21世紀に入り、我が国の社会経済は大きく変容し、諸制度も急速に変化する中、平成15年4月1日には府内では2番目となる中核市に移行した。

そして、人口減少や少子高齢化の進行、自然災害の増加や感染症の流行など、本市を取り巻く状況の変化に対応し、持続的な成長を次代につなげていくため、令和3年度を初年度とする第6次高槻市総合計画を策定した。市民や事業者と共に魅力あるまちづくりを進めていくため、「子育て・教育の環境が整ったまち」など8つの将来の都市像の実現を目指している。

2 位置及び面積

面積	105.29 km ²	
広ぼう	東西	10.4 km
	南北	22.7 km
海拔	最高	678.7 m
	(ポンポン山)	
	最低	3.3 m
	(柱本・淀川河川敷)	
市役所	10.4 m	
市役所の位置	所在地	桃園町 2 番 1 号
	経緯度	東経 135° 37'
		北緯 34° 50'
備考	大阪から	21.2km
	京都から	21.6km



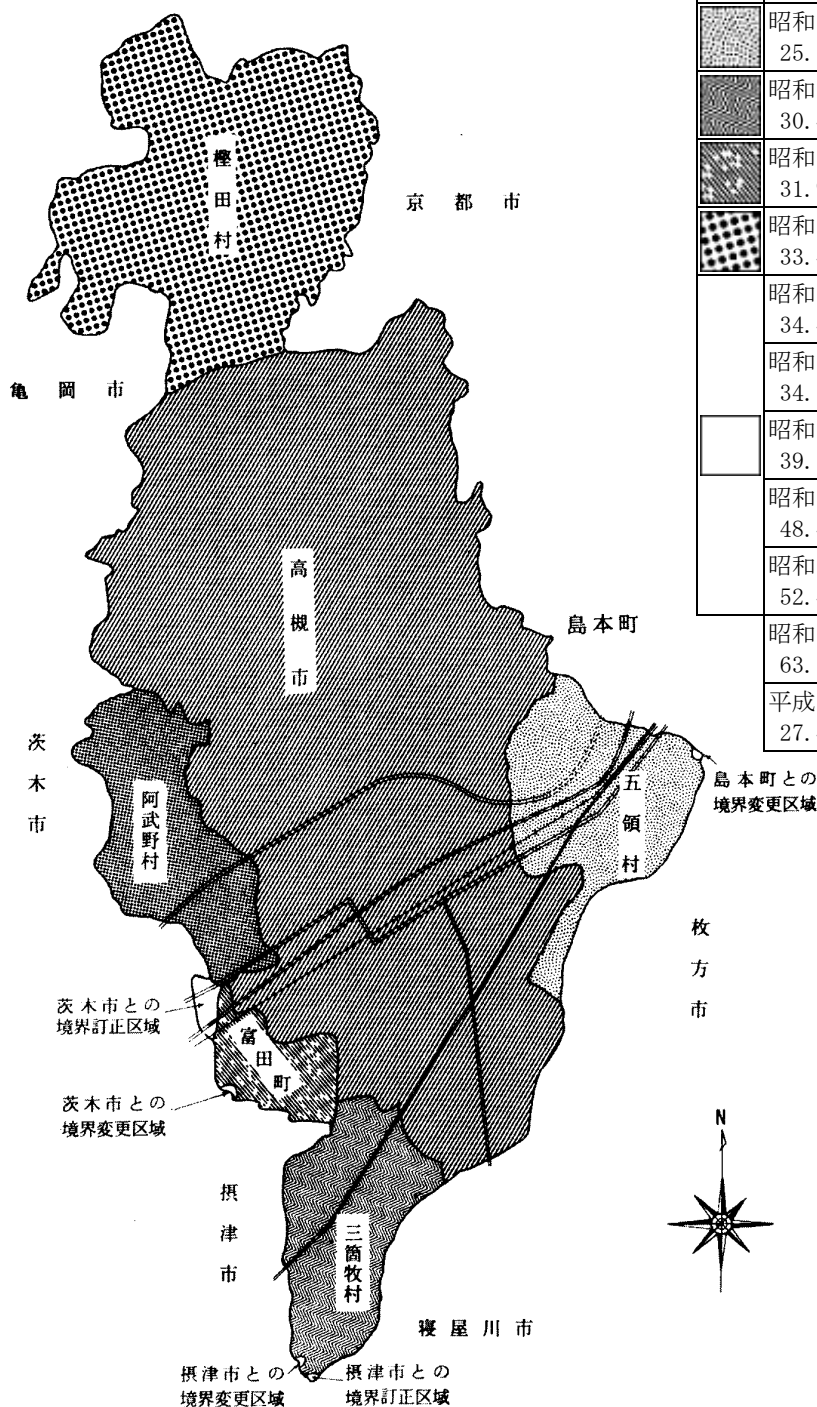
3 地 勢

本市は、大阪府の東北部、大阪市と京都市のほぼ中間に位置し、北は北摂連山で京都府亀岡市と京都市西京区に、南は淀川に面し摂津市と寝屋川市に接している。また、西は安威川や平地で茨木市に、東は山間部で島本町と、さらに淀川を隔てて枚方市と接している。

地域の中心は、旧高槻町・芥川町で市街地域を形成し、主要幹線道路の両側には近代的な工場が建ち、周辺農地は宅地化され新興住宅街に変貌している。

市街地を南北に二分して JR 東海道本線と阪急電鉄京都線が平行して走り、一方北部丘陵地を東西に名神高速道路が、中心地南部を東海道新幹線が横断し運輸交通至便である。また、市の東部で檜尾川が、西部で芥川がそれぞれ淀川にそそいでいる。

4 市域の変遷



	昭和 18. 1. 1	市制施行	面積 k m ² 64. 30
	昭和 23. 1. 1	阿武野村 合併	...
	昭和 25. 11. 1	五領村 合併	...
	昭和 30. 4. 3	三箇牧村 合併	...
	昭和 31. 9. 30	富田町 合併	86. 83
	昭和 33. 4. 1	檜田村 合併	104. 51
	昭和 34. 4. 1	茨木市との 境界変更	104. 51
	昭和 34. 10. 1	茨木市との 境界訂正	104. 84
	昭和 39. 10. 1	摂津市との 境界訂正	104. 95
	昭和 48. 4. 1	島本町との 境界変更	104. 95
	昭和 52. 4. 1	摂津市との 境界変更	104. 95
	昭和 63. 10. 1	国土地理院 改測による修正	105. 31
	平成 27. 4. 1	国土地理院 改測による修正	105. 29

5 人 口

(1) 人口等の推移

(令和7年4月末現在)

年別	区分 世帯数	人 口			平均世帯人数
		男	女	計	
1970	61,280 (世帯)	110,588 (人)	106,407 (人)	216,995 (人)	3.54 (人)
1975	101,153	164,121	162,061	326,182	3.22
1980	106,681	170,311	170,979	341,290	3.20
1985	111,710	172,827	175,095	347,922	3.11
1990	121,615	178,931	182,402	361,333	2.97
1995	129,416	179,862	184,331	364,193	2.81
2000	138,413	177,195	183,149	360,344	2.60
2005	145,724	173,355	182,798	356,153	2.44
2010	153,521	173,645	185,381	359,026	2.34
2014	156,786	170,994	184,878	355,872	2.27
2015	157,526	170,285	184,939	355,224	2.26
2016	158,509	169,794	184,894	354,688	2.24
2017	159,271	169,233	184,486	353,719	2.22
2018	159,922	168,887	184,098	352,985	2.21
2019	160,501	168,321	183,544	351,865	2.19
2020	161,735	167,984	183,357	351,341	2.17
2021	162,893	167,667	183,167	350,834	2.15
2022	163,355	166,584	182,447	349,031	2.14
2023	164,637	165,678	182,100	347,778	2.11
2024	165,673	164,638	181,595	346,233	2.09
2025	166,549	163,853	180,984	344,837	2.07

(2) 年齢別人口

